

## 今日のみことば

### □ 4月2日(日) コリント二 10章

パウロは決して自分の思考力や、人格の魅力には頼らなかった。誇るべき多くのものを持ってはいたが、彼はむしろ苦しみと弱さ、与えられた主の幻と啓示を誇りとした。

### □ 4月3日(月) コリント二 11章

パウロは誇ることの愚かさを知っていたが、コリント教会の人たちのために、あえて霊的に低い人たちに対して、そこに立って教えることの必要を彼は感じていた。

### □ 4月4日(火) コリント二 12章

パウロは霊的高慢に陥らないように、ひとつのトゲを与えられた。それを取り除いてほしと願ったが叶えられず、「わが恵み汝に足れり」との言葉をいただいた。

### □ 4月5日(水) コリント二 13章

パウロは私たちに霊の健康診断を求める。私たちはキリストのご臨在と力を強く自覚しているだろうか。それによってほんとうのクリスチャンかどうか分かる。

### □ 4月6日(木) ガラテヤ 1章

最初からパウロの意気込みが感じられる冒頭である。信仰のみによって救われる福音と違った福音は、人を救わず、従って福音と言うべきものではないと主張する。

### □ 4月7日(金) ガラテヤ 2章

パウロは自分の召命と使徒職がエルサレム教会の権威に属さないものだとして述べてきた。それがパウロの異邦人伝道が論議された教会会議を機会に、確認されることとなった。

### □ 4月8日(土) ガラテヤ 3章

自分の力で律法を完全に守って救われようとするのは、自分の罪深さも神の恵みも知らないものである。キリスト者はただ信仰を通して神の恵みによって救われ、信仰生活を送るのです

---

ろ ば No. 1809

2017年 4月 2日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ヘブル 12:2

信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

そのことは特にゲッセマネでの試練で発揮されました。十字架への道を「あなたのみこころのままを、なさってください」(マル14:36)と祈ることによって従われました。イエスの信仰は神のゆえに受けるはずかしめ、しかも十字架の恥と苦難は切り離すことは出来ないのです。十字架刑は恥辱の刑です。十字架を取り巻く人々のイエスに対する態度はあざけりでした。この恥を、イエスは神のみ旨に従う者が受けるべきものとして忍ばれたのです。イエスは「ご自分の前に置かれた喜びのゆえに」これを忍ばれました。イエスはご自身が信仰の道を全うされることによって、ご自身の民がその道によって神に近づくことが出

キリスト・イエスの「自分の前  
にある喜びのゆえに」とは何のこ  
とですか。どのように聞いてもそ  
れは、十字架の出来事をおいてほ  
かに考えることは出来ません。普  
通では考えられないイエスの思い  
を私たちは聞くのですが、でもイ  
エスのこれまでの行動を思い起こ  
させていただくなら、宜なるかな  
と思わせられることです。

イエスは私たちの信仰生活の軌  
道を定められたお方です。このヘ  
ブル書の記者にとって、信仰は一  
つの道程でした。そしてそれは苦  
難を経て全うされる道でした。イ  
エスが先導して定められたこの道  
は、またイエスのよって完成され  
た道でもあります。イエスのご生  
涯は、父なる神に対する信仰と信  
頼によって一貫されていました。

来るようになることであり、またそれによって、この世界に神のご計画が完成することでした。イエスはその喜びを鮮やかに見ておられたゆえに、恐ろしい苦難と恥を忍ばれたのです。

このイエス・キリストが大祭司として、この尊い血潮によって開かれた道は、私たちが神に近づくための唯一の道なのです。この道によって近づこうとする者を、キリストは確実に全うして下さいます。しかしこの道は、苦難を経て全うされる道であり、はずかしめを忍び通す道でもあります。そこで信仰者は試練を受けなければなりません。

私はこのヘブル書の記者の「あなたがたはまだ、罪と戦って血を流すまで抵抗したことはありません」という言葉に衝撃を受けました。この手紙の読者への言葉だと言うことは承知しながらも、イエスの出来事に、どれほど真剣に向きあっている自分がいるかは、大変重要であろうと思うのです。イエスはこの道を喜びと心得て歩まれたのです。その先にある栄光を確信して歩まれたからにほかなりません。それこそが私たちが歩む道ではありませんか。「あなた方は、これを鍛錬として忍耐なさい。神はあなた方を子として取り扱っておられます」と言われるのです。私たちは十分に理解をし受け取っているイエス・キリストの十字架の恵みを、もう一度確認させていただかねばならないのでしょうか。イエスの十字架上でおの痛みの叫びをしっかりと聞かせていただきます。その先にある栄光を見させていただきます。そこにある喜びに私たちは加えさせていただきます。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

ルカ24:36-50 主を証しする方法三つ

復活のイエスが弟子たちとお会いになって、弟子たちに告げられた言葉はひとつです。福音書に記されている状況場面は違っても「あなたがたはこれらのことの証人となる」との言葉です。これが弟子たちは生きる道である、今日の私たち信仰者の歩みべき道でもあります。

弟子たちは、時と場所を選ばず、その置かれたところで「イエスはキリスト・主なり」と語りました。たとえ迫害のさなかにあろうとも、獄中にあってもです。彼らは声を上げて主を讚美し、主を証しました。パウロとシラスの獄中での彼らの讚美と祈りは、囚人たちだけでなく、獄吏をも信仰に導きました。ペテロはどんなに黙らせよとしても、語らないわけには行かないといいました。けれども最も大きな彼らの証しは、主のみ言葉に生きる彼らの生活でした。彼らがクリスチャンと呼ばれたことが何よりの証拠です。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	マタイ21:1-11 王として迎えられた主
----------	-----------------------